

喜多原だより

NO. 8 9

令和8年3月吉日発行

福生中学校いずみ分校 吉村教頭挨拶

中学3年生と小学6年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。そして、他の学年のみなさんも今年度の教育課程の修了おめでとうございます。

令和7年度が終わろうとしている今、みなさん自身がたてた目標は達成できましたか？みなさんが思い描いていたゴールには到達しましたか？ひょっとしたら、自分の中のなまけ心に負けてしまったり、自分の都合や利益を優先したり、適当な理由をつけて自分や周りの人に言い訳したりという人もいたかもしれません。

そういった弱い人間がダメだと言いたいものではありません。そういった側面は、大なり小なり誰もが持っているものです。ただ、自分のなかにある弱さを見て見ぬふりはしないようにしてください。できなかった自分も、やろうとしなかった自分も、わがままな自分も、すべて自分自身です。当たり前のことですが、今みなさんが置かれている環境、生活している喜多原学園・いずみ分校という場は、みなさんにとって永遠ではありません。多くの中学3年生がそうであったように、ここにいる全員が、やがて退所して巣立っていきます。そして、時の流れとともに、みなさんも大人になっていきます。それと同時に、「もっとこうの方が良いよ」とか「そんなことしちゃダメだ」など、支援してくれたり注意してくれたりする大人は減っていきます。

日本の社会のしくみとして、公的な支援がゼロになるわけではありません。むしろ、さまざまな公的支援が整備されています。しかし、何か支援を必要とするなら、当事者である自分から動かないといけません。自分のために、誰かが何かをしてくれることを待っていても、その状況は何も変わらないのです。つまり、大人になるということは、自分で自分のことを何とかする力をつけ、自分をサポートしてくれそうな人や組織とつながることのできる社会性（コミュニケーション力や社会常識など）を身につけていくということなのです。

いずみ分校の先生方もそうですが、喜多原学園の先生方は、もっと多くの時間をみなさんと過ごし、さまざまな場面でみなさんを支援してくれています。そういった支援体制が身近にあるうちに、より多くの力を身につけないのは、もったいないと私は思います。

喜多原学園に望んで来た人は圧倒的に少ないとは思いますが、ここに置かれている自分の状況を前向きにとらえることが難しい人もいるとは思いますが、しかし、喜多原学園にきたことを自分にとってのチャンスととらえ、ここで過ごす時間や経験を、自分が将来自立していくための土台としてほしいと思います。

説教臭く聞こえたかもしれませんが、みなさんに関わっている喜多原学園・児童相談所・いずみ分校の大人たちの願いはたった一つ…。「みなさんが自分らしい生き方を見つけ、自分の力で生活していける大人になってくれること」です。欲張って言えば、みなさんが社会人として生活していく中で、身近な誰かの支えとなっていたり、希望となっていたりしてくれたら、みなさんに関わったひとりの大人として、これほどうれしいことはありません。今後のみなさんと、みなさんの近くにいる人たちに、人よりもちょっとだけ多くの幸せが訪れることを願っています。

(米子市立福生中学校いずみ分校教頭 吉村崇志)

卒業生へ送る言葉(分校職員)

卒業生の皆さん。御卒業おめでとうございます。そして、皆さんのこれからの人生が豊かで、幸せに満ち溢れたものになることを心より願っています。

まだ若い皆さんには「可能性」、「チャンス」、「夢」、「希望」、「エネルギー」、「すばらしい出会い」、「失敗も含めた新たな体験」、「挑戦や、やり直しのための十分な時間」などがあります。これらのことを大切にして、幸せな自分になっていくために、これからも日々、少しずつ、少しずつ努力を続けていってください。Go ahead!

(福生中学校いずみ分校 3年3組担任：古山陽一朗)



幼い頃、ウルトラマンや仮面ライダーといったヒーローが大好きだった。悪い奴らをバツバツとやっつける姿に心躍らされていた。

ところが、その気持ちが大きく揺らいだのが、やなせたかしさんが語った次の言葉に出合ったときだった。

「本当の正義の味方は、戦うより先に、飢える子どもにパンを分け与えて助ける人だろう。」

そんなこと本当にできるのかと問われると、甚だ自信はない。でもそうありたいと思う気持ちだけは抱き続けたい。なぜなら、それが真の平和へ通じるたった一つの道だと確信できるからだ。戦う前にすべきことが「ある。」

(福生中学校いずみ分校 3年1組担任：米田達司)

卒業おめでとうございます。今、新しい環境に飛び込む期待、不安、いろいろな思いを抱えていることでしょう。もし困難にぶつかった時には、学園で経験したことを思い出してください。園遊会、駅伝大会、クリスマス会など、ここぞという時にすごく大きな力を発揮した場面がたくさんありました。そんな自分の力を信じて、これからもたくさんのことにチャレンジしていってください。次は「進学決まったよ」「就職決まったよ」と報告に来てくれたら嬉しいです。

みなさんのこれからの活躍を期待しています。たくさんの思い出をありがとう。

(福生中学校いずみ分校 先東淳子)



卒業おめでとうございます。今までの教室で過ごした時間は終わりますが、皆さんの学びというのはこれからも続いていきます。ここからまた新たなスタートです。誰よりも自分らしく、感謝の気持ちを忘れず、熱く駆け抜けてください。過去の経験というのは、すべて自分自身の成長の糧になります。自信を持って、「恐れず新しい世界へ飛び出せ！」君たちの未来が、やわらかな光で満ちていますように。

(福生東小学校分教室 6年担任：谷本孝文)

卒業を祝う会の様子

〈卒業生の言葉〉

私は、喜多原で話し合いができるようになりました。この力を生かして、勉強と遊びが両立できる高校生になりたいです。今まで本当にありがとうございました。頑張ります！ (3年、Tさん)

相手の感情に振り回されずに、自分の気持ちを貫きます。

(3年、Sさん)



1年を振り返って

男子寮

ここ数年、喜多原の男子寮で勤務をしていて、その時々に入所している子どもや職員のメンバーによって様々なことがありましたが、この一年も、振り返ってみると本当にあっという間だったと思います。

男子寮では、中国地区の児童自立支援施設が集まる大会に参加するため、野球や駅伝の練習に力を入れる時期があります。近年、野球は喜多原に入所して初めて取り組んだという子どもがほとんどで、ルールを覚えるところから悪戦苦闘することが多いのですが、山口県で行われた野球大会では、試合に負けそうになり気持ちが折れてしまいそうな時でも、チームで声を出し合いながら最後の最後まで一生懸命取り組む姿を見せてくれました。

また、大雨の中、地元鳥取で開催された駅伝大会も忘れられない出来事となりました。今年度は、子どもたちの頑張りにより男子駅伝は準優勝、その他にも個別でいくつか賞をいただきました。子どもたちにとって、目に見える形で良い結果を残すことができた経験は非常に大きく、今後の子どもたちの自信や新しいことにチャレンジする勇気につなげてほしいと思っています。



【プール掃除】



【毎年恒例の梅の収穫】

喜多原で生活するにあたって、「あたり前の生活を送れるようになってほしい」ということを耳にすることがあります。「あたりまえの生活」と言うと、多くの人が一定の、変化のない規則正しい生活をイメージするかもしれませんが、実際にはそのような生活を営もうとするためには、生活する個々の子どもの状況の変化に気づき、そのニーズを配慮しながら、創意工夫した取り組みを行うことが必要となります。

男子寮では、そうした取り組みの一つとして、寮内のルールについても子どもたちと話し合いや確認を行うようにしているところです。そもそもなぜこのようなルールがあるのか、どうしていくとよいと思うか。子どもたちの間で話がうまくまとまらないこともあります。時に自分が引いたり、逆に意見を求めたり、周囲を納得させるような形で伝えようとしていたりして、それぞれの良い所や課題が浮き彫りになる、大変貴重な経験になっていると思っています。

子どもたちは、それぞれ抱えている背景や課題があり、今後ともそれらと向き合いながら生活していくことになると思いますが、喜多原に入所して間もない頃と比べると、少なくとも自分の思いを言葉にすること、相談することは、徐々にできるようになってきていると感じています。日々支援をいただく関係の方々に感謝するとともに、これからも温かいご支援をいただけますようによろしくお願いいたします。



【余暇時間に虫取り】

(男子寮副寮長 藤原敦)

女子寮

学園理念の「自立し社会と調和する子ども」には、たくさんの意味と願いがこめられています。女子寮では、この1年、この理念に向かって、子どもも大人も共に歩んできました。

毎月2回ある寮職員の会議（寮会）では、「子どものつよみ」について話し合う時間があります。一緒に過ごす中で見つけた、子どもたちの「つよみ」や、「できること」をスタッフがそれぞれ持ち寄り、披露し合います。「へ～そんなことがあったんだ」「ステキだね」などの感想が飛び交います。エピソードを語る寮職員の優しく穏やかで清々しい表情を見ていると「この人たちは子どもを大切に思ってるなあ」と幸せな気持ちになります。



【お正月のおせち作り】



【かまくら作り&実は中でラーメンを…！】

寮会で出し合った、子どもの「つよみ」と「できること」は、寮職員から子どもたちへ個別に伝えられます。大人もそうですが、自分のことは自分ではなかなか気づきにくいものです。だからこそ丁寧に伝えることで、自分を知って自立し、それを生かして社会と調和して行ってほしいのです。

その他、子どもたちのできることをさらに増やすために、子どもが少し背伸びをすれば手の届きそうな、目標や仕掛けをみんなで考え、子どもたちへ伝えます。自分の能力を知ったり、再確認した

りできるこの時間を、子どもたちはとても楽しみにしてくれています。

また、女子寮では、子ども同士、子どもと大人、大人同士で、たくさん話し合いをしてきました。話し合いには、色々な技術や工夫がいります。最終的に自分の意見や考えが、相手に伝わるようにするためには、まず自分が「何を考えているのか」「どう感じているのか」気づく必要があります。寮のスタッフは事あるごとに「その時どんな気持ちでした？」「どんな感じだった？」「どうしたい？」などと問いかけてきました。入所してすぐの頃は「忘れた」「知らん」「分からん」と答えていた子どもたちですが、日を追うごとに、その時の自分の気持ちを考えたり、思い出したりして言葉にすることができるようになります。自分の気持ちを感じとることができたら、次はそれを相手に伝える練習です。相手の立場になって、どのように伝えれば伝わるかを考え、声を発します。



【話し合い→実践！】



話し合いはいつもトライアンドエラーの連続です。寮職員は、子どもたちが安心して失敗できるよう、安心して挑戦できるよう、見守ったり介入したりします。私たちは、自分たちが心地よく生活するためのルール、係や掃除の仕方、お風呂の順番など、大小様々なたくさんのことを話し合いで決めてきました。喧嘩したり仲直りしたり、泣いたり笑ったりしながら、自分たちの生活を自分たちで作ってきたのです。

女子寮職員一同、いつもたくさんの笑顔と感動を与えてくれる子どもたちを愛おしく、また誇りに思います。この先もこんな子どもたちと真摯に誠実に向き合っていきたいと思います。

（女子寮副寮長 赤井智絵美）

学園行事

こたか保育園交流

3回目は保育園にお邪魔して交流会を行いました。家庭科の授業と協働し、各学年で楽しく遊べるレクリエーションを考えました。「新聞じゃんけん」では新聞が小さくなるにつれて、抱っこしたりおんぶしたりとペアの園児と工夫しあって挑戦していました。最後には園児の皆さんにパワーのあふれる太鼓を披露していただきました。

3回の交流で学園での生活では見ることのできない姿をたくさん見ることができました。優しい笑顔や声かけにあふれた交流会でした。
(女子寮職員 森明花)



クリスマス会



全員が全力で楽しく取り組むクリスマス会を今年度も行いました。クリスマス会は学園の児童・職員・教員が集まり、食事や出し物、サンタさんからのプレゼントなど全員でクリスマスをお祝いしながら、同時に2学期の頑張りを実感する場でもあります。

今年度はクリスマス会プログラムのなかにサクソ・オカリナ演奏会を開催し、演奏者の皆様にお越しいただきました。日常でなかなか聞く機会のない素敵な生演奏を披露していただきました。ありがとうございました。

来年度もこの素敵な行事を一つの楽しみにしながら日々を大切に過ごします。
(男子寮職員 影山健太)

〈児童コメント〉

毎年恒例の出し物発表のけん玉が盛りあがって良かったと思います。

スキー・スノーボード体験

女子寮児童は全員がスノボを体験しました。初めてだったので最初は戸惑いながらも、自分がどこまで滑れるようになるのか楽しみに、最後まで粘り強く諦めない姿がありました。転んでもすぐに立ち上がり、何度も挑戦を重ねる中で、少しずつ感覚をつかみ、楽しみながら上達していく様子が印象的でした。

滑り終えた後の児童からは「楽しかった」「もっと滑りたい」「また来年もしたい」と前向きな声があがり、充実した体験となりました。
(女子寮職員 谷本英美)



餅つき



令和7年度も吉定農業生産組合の方々の協力を得て、児童たちは米作り体験を行いました。収穫したお米を使い、お正月やとんどで使うお餅をつきました。杵と臼を使い、児童たちは力を合わせ餅をつきました。最初は杵の重さにふらつく姿も見られましたが、何度もついていると、慣れた様子もみられました。餅を丸めることが上手な児童や、どうやったら上手に丸めることができるかを聞いて実践してみる児童の姿など、協力しながら取り組むことができました。日本の伝統的な正月準備行事である餅つきを児童、職員で取り組むことができ、新年を迎える準備ができました。

（女子寮職員 落合知香）

〈児童コメント〉 どうやってつくってたのかがしれた

お正月行事

日本の伝統料理であるおせちを作りました。はじめは馴染みのないおせちに戸惑っていた児童も料理の意味を調べて理解しながら調理しました。伝統的な料理を食し、日本食の奥深さを味わいました。

3学期始業式の日にはとんどを行いました。児童らにとんどの意味を伝え日本古来の伝統文化に触れる機会となりました。とんどで燃え上がる炎は年神様を煙とともに見送るという意味がありキラキラした表情で炎を見つめている姿が印象的でした。無病息災の意味を持つ正



月餅は児童らが年末に餅つきを行いその餅を大事に焼いて食べました。煙とともに児童らの願いが天に届いていきますように。日本の伝統文化を体験しできること、知っていることが増えました。

（女子寮職員 朝倉梨花）

〈児童コメント〉 初めてとんどして楽しかった

子どもの権利擁護推進

本園は平成30年に理念を「自立し社会と調和して生活する（ことを支援する）」と定め、その実現に向けてルール、ペナルティ、いわゆる「強い指導」を極力排除し、子どもたちの権利擁護推進の観点も積極的に取り入れながら変化を続けてきました。

その結果、現在の本園は「子どもの個別性に対応する柔軟さ」、「意見を言いやすい雰囲気」、「話し合いで『みんながそれならいいね』と一緒に創っていく文化」があります。しかしその一方で、管理統制面での枠組みを意図的に弱めてきたこと、子どもたちがありのままの姿を出しやすい環境の中で、本来のニーズが表面化することで、増大してきた「個別的支援」と、上記の「話し合い」に多くの人的・時間的資源を投入しています。その中で、職員に求められる専門性（子どもたちと「やり・とり」しながら一緒に過ごし、一緒に進む力）は、より一層高まっています。

日々いろいろなことが起こり、大人も子どもも大変です。ただ、本園が理念を大切にしながら進んできたこの方向性は、間違っているとは思いません。本園の理念を体現することは、まさに子どもの最善の利益の追求であり、子どもの権利擁護そのものであると考えるからです。私たちは、今後も理念の体現と子どもたちの最善の利益の実現を真摯に目指し続けていきます。

（指導課長 堀江健太郎）

後援会関係 ～クリスマスケーキなど、ご寄付いただきました！～

更生保護女性会の皆様、マイスターの皆様から、今年もクリスマスケーキをご寄付いただきました。

児童たちは大喜びでケーキをいただきながら、クリスマスの雰囲気をと幸せなひとときを楽しんでいました。その他にも、県外の方からバレンタインデーのチョコレートや、衣類、文房具をいただくなど、子どもたちの健やかな成長を願う多くの皆様より温かいご支援を賜りました。本当にありがとうございます。

喜多原学園では随時、後援会の会員を募集しています。皆様のご支援が学園で暮らす子どもたちの支えになります。

【会費振込先】(口座名)鳥取県喜多原学園後援会

(口座記号)01440-2 (口座番号)4066

※一口1,000円から募集しています。趣旨にご賛同いただける方はご協力よろしくお願いたします。



お知らせ

全国児童自立支援施設協議会は機関紙「児童自立とWITHの心～児童自立支援施設の実践～」を発行し、毎年度いろいろな特集テーマで実践知を蓄積しております。

同協議会ホームページより閲覧可能です。



喜多原学園では現在、夜間支援員、心理療法担当職員(会計年度職員)を募集しています。

詳細はこちらから！



令和8年度 年間行事計画

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 4月 観桜会、遠足 | 10月 大山登山、バレー大会、脱穀、 |
| 5月 こたか保育園交流、乗馬交流 | 11月 駅伝大会、園遊会、乗馬交流 |
| 6月 田植え、 | 12月 こたか保育園交流、クリスマス会、餅つき |
| 7月 野球大会 | 1月 とんど、スキー・スノーボード体験① |
| 8月 海水浴、川遊び、夏休み行事 | 2月 スキー・スノーボード体験②、各種講座 |
| 9月 デイキャンプ、稲刈り | 3月 卒業を祝う会 |



児童在籍情報 ※R8年3月1日時点

小学校		中学校		計
男子	女子	男子	女子	
1人	0人	9人	6人	16人

編集発行

鳥取県立喜多原学園

〒689-3512

鳥取県米子市泉706

TEL 0859-27-1101

FAX 0859-27-1611

メールアドレス

kitahara@pref.tottori.lg.jp